

## 自己推薦書の学修計画サンプル

### 3 本プログラムでの学修計画について

2 適性アピール の3) 本プログラムでどのようなことを学びたいかについて、本プログラムや各学部のホームページなどを参考に、具体的な学修計画を日本語や英語で、以下の枠内に収まるように記入してください。図や表などを使ってもかまいません。

#### ※参考ホームページ

「本プログラム」 [https://discovery.okayama-u.ac.jp/en/about\\_discovery/courses/](https://discovery.okayama-u.ac.jp/en/about_discovery/courses/)

「各学部」 <https://www.okayama-u.ac.jp/tp/faculty/index.html>

「サンプル」 [https://discovery.okayama-u.ac.jp/jp/admissions/discovery\\_application/](https://discovery.okayama-u.ac.jp/jp/admissions/discovery_application/)

※ページ数は変更できません。文字数の制限はありませんが、フォントは10.5pt以上を使ってください。

岡山大学が生んだ、岡山米を使った日本酒「おお岡大」を世界に売るためには何が必要か。この問いに答えられるようグローバル・ディスカバリー・プログラムでの学修計画を立ててみた。「おお岡大」の製造過程、販売手法の研究、そして世界に発信するための方法をすべて学び、必要なスキルを4年間で身につけることは困難であると思うが、グローバル・ディスカバリー・プログラムならではの「トラックの境界を越えた履修」を生かして、夢をできる限り実現したい。

2年次にはマッチングトラックに進み、「おお岡大」を生み出した農学部で卒業研究まで取り組みたい。研究課題は現時点では未定だが、入学後の興味が米の製造になれば「応用植物科学コース」、日本酒の醸造過程になれば「農芸化学コース」に入りたいと思っている。どちらも興味があるので、1年次に教養教育科目や農学部の授業を幅広く履修し、どちらか1つ選ぶつもりである。

同時に、経済学部が提供する実践社会連携科目のうち「ものづくり経営論」「現代中小企業論」「各国経済・ビジネス事情 in English」の授業を履修し、日本が誇る「ものづくり」について理解を深めた上で、日本酒製造の経営、そして国際経営についても知識を深めていきたい。

実践科目としては、長期休暇を利用し、岡山の酒蔵でインターンシップをしようと思っている。日本酒の製造過程を直接体験し、その経験をインターンシップ後の学び、さらには卒業研究に向けての課題発見につなげられればと思う。

また、「おお岡大」を世界に発信するためには英語力や海外の理解を深めることも必要である。1年次には英語力をさらに高めるため、できるだけ多くの英語の授業を履修したい。語学の授業だけではなく、英語で学ぶディスカバリーの授業にも挑戦するつもりである。特に、Cross-Cultural Experiences, Anthropology of Food, Marketing の授業に挑戦し、世界中から集まっている多様な背景、価値観を持ったクラスメートと話し合いながら、グローバルな学びを深めていきたい。そして、農学部、経済学部で学んだことと合わせ、多角的に考察し、ディスカバリー生らしい卒業研究に取り組むつもりである。